

香料アレルギー (2)

10 数年前、ダウニーという外資系の柔軟剤が販売されはじめ、その強烈な匂いにより、汗や体臭をごまかせるため、歓迎する人々が増えていき、国内メーカーも、どんどん香料の独自性、強さや取れにくさを競い、柔軟剤、洗剤、制汗剤、消臭スプレー、ヘアケア、化粧品などの香料の匂いが、生活空間に満ち溢れるようになって来ました。それと共に、それらの香料に過敏症を発症し、頭痛、嘔気、倦怠感、思考力低下、イライラ、気分の悪さ、中には意識を無くして倒れる方も増えてくるようになりました。

0歳の赤ちゃんの慢性の鼻炎、咳、湿疹の原因が、これらの香料のみということも、見られるようになりました。ここ数年来の特徴です。食べるものは選べても、吸う空気は選べません。運命共同体です。

ある保育園の1歳のお子さんがおいでになりました。園舎に入ると泣き続け外に出すと泣き止むという訴えです。調べますと、三叉神経のアレルギーが強く、頭が痛くて泣いているのだと判明しました。アレルゲンは何か、と調べますと、食物、新建材やハウスダスト等ではなく、柔軟剤や洗剤、化粧品などの香料でした。その他の異常は探しても見当たりませんでした。次の診察時、その子は、毎日ご機嫌よく登園しているという。聞けば、保育士さん、保護者の皆さん全員が、香料の物を止めてくれたのだといいます。

この3月、ほしいもの会（丹後アレルギーを考える会）の30周年記念集會に参加した時の事。香料に過敏な方のために、皆、香料の物を使っていないのですが、以前に使った人の椅子の移り香対策まで、過敏な方に、確認しながら、徹底して行っていました。加悦山の家の澄んだ空気に香料の匂いが全くしない素晴らしい空間でした。

こんな素晴らしい人間の集団があるのだと本当に感激しました。本来のあるべき人間性というか、未来の人間性を見せてくれたのです。

一方、お隣さんの洗濯物の匂いで、頭痛や吐気に苦しんでいた方が思い余って、勇気を出し、そのことを伝えると、「うちは今の洗剤じゃないとダメなので。」と断られた、というのです。多分、お隣さんは、その香料の依存症になっているのでは、と疑われるのですが。それでも、自分が使っているもので、他の人が苦しむことがある、ということ、真剣に考えてほしいものです。

バスや電車に乗れない、人ごみに行けない、教室に入れない、安全な空気を吸うのにも、生活の制限や苦勞を伴う、こんな状況をもたらすものは欠陥製品です。そしてこのように、身体へのダメージが強いものほど、使い続けると、依存症になっていくのです。そのことは、企業にとっては、ものが売れ続けるので、成功と判断するのでしょうか。香料の被害は、医学的に証明しにくいから、野放しです。証明しにくくても明らかにその匂いで多くの被害が現実に出ているのですから、疑わしきは販売許可せず、の予防原則が、いまこそ必要なのではないでしょうか。

鈴木富美